



大雨時の運転 一歩間違えると命の危険も

車を運転中、急に集中豪雨に遭遇するケースや、台風時に車で避難しなければならないケースなど、冠水した道路を運転する危険性や、身を守るために知っておくべきポイントを紹介します。

大雨による視界不良に注意

大雨時は視界が極端に悪くなります。日中であっても前方が見えにくくなることや、カーブの先が見えない場合があるので、いつも以上に安全に配慮した運転をしましょう。

大雨時は歩行者や自転車も同様に視界が悪いだけでなく、急ぐあまり周囲の確認がおろそかになる可能性があります。歩行者や自転車が予想外の動きをすることも考慮しましょう。

気象庁によると降水量が1時間に50mmを超えた場合、「車の運転は危険」とされています。天気予報をこまめにチェックし、大雨のおそれがあるときは不要不急の車の運転は控えるようにしましょう。



道路冠水の危険がある場所の走行は避ける



大雨時は、立体交差点や高架下などのアンダーパス、すり鉢状にくぼんでいる道路などは冠水の危険が大きいため、このような場所を走行するのは避けましょう。

冠水の危険が高い道路の手前には、冠水への注意や冠水時通行禁止などを表示した看板が設置されているところもあります。注意の看板を目にしたときは無理して先へ進まず引き返しましょう。また、普段から冠水しやすい場所を把握しておきましょう。

台風や長雨で川が増水しているときは近くを通るのを避ける

大雨により堤防の決壊や越水が起こると、車ごと流されてしまうおそれがあります。大雨の際に川の様子を見に行くことはもちろん、増水時は川沿いの道路の走行は極力避けましょう。

また、過去には用水路の様子を見に行き流されてしまった事案もあります。小さな用水路であっても足を取られると流されてしまいますので、大雨の際には、決して近づかないでください。

